３　北斗市の観光動向と課題

（１）北斗市の観光動向

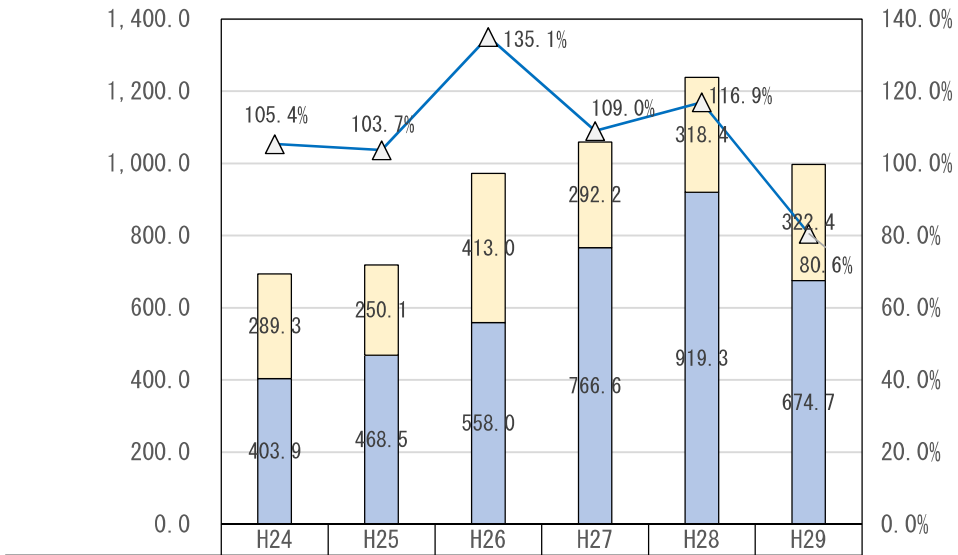
ア　観光入込客数の推移

当市では、平成２４年度を「観光振興元年」と位置づけ、平成２８年３月の北海道新幹線開業を見据えた各種観光振興施策を進めてきたところです。

平成２４年度以降は、全道的にも観光需要が増加している影響もあり、当市の観光入込客数についても増加傾向にあります。

平成２８年３月に北海道新幹線が開業し、当市の話題がメディアに取り上げられる機会も大きく増加したことも影響し、平成２８年度に関しては、過去最高の１２３万７千人となりました。

しかし、平成２９年度については、新幹線開業ブームが一段落したことにより、入込客数は９９万７千人と、平成２１年以来、８年ぶりの減少となっています。

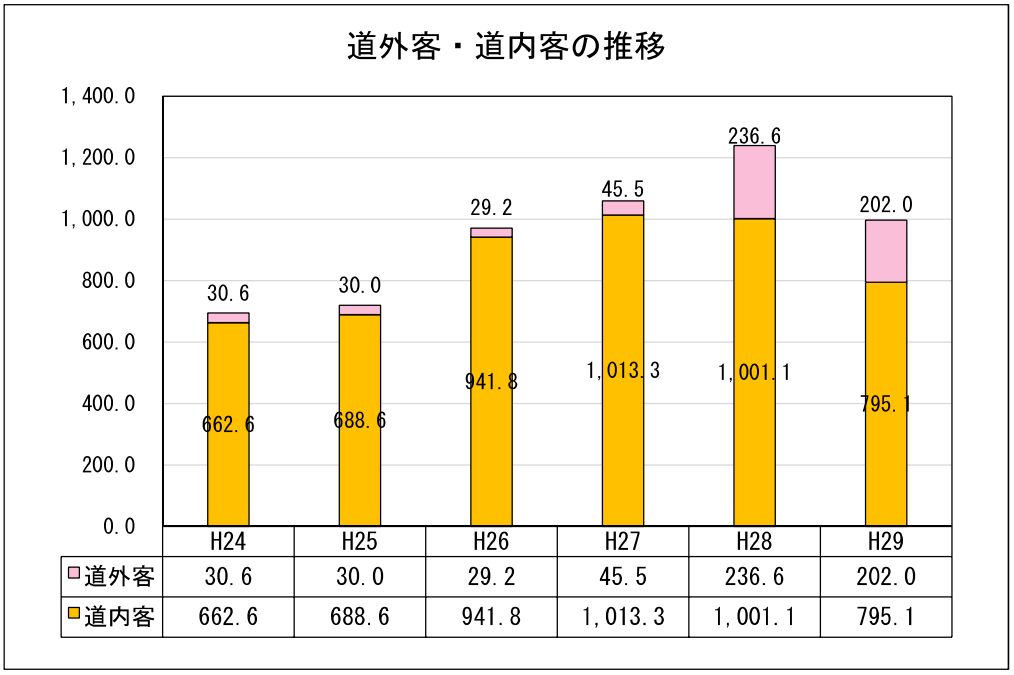


	H24	H25	H26	H27	H28	H29
下期	289.3	250.1	413.0	292.2	318.4	322.4
上期	403.9	468.5	558.0	766.6	919.3	674.7
上期・下期計	693.2	718.6	971.0	1,058.8	1,237.7	997.1
対前年度比	105.4%	103.7%	135.1%	109.0%	116.9%	80.6%

イ　道外・道内別入込客数の状況

平成２９年度は道外客、道内客いずれも減少に転じたものの、全体的な傾向で考えると、いずれも増加傾向にあります。

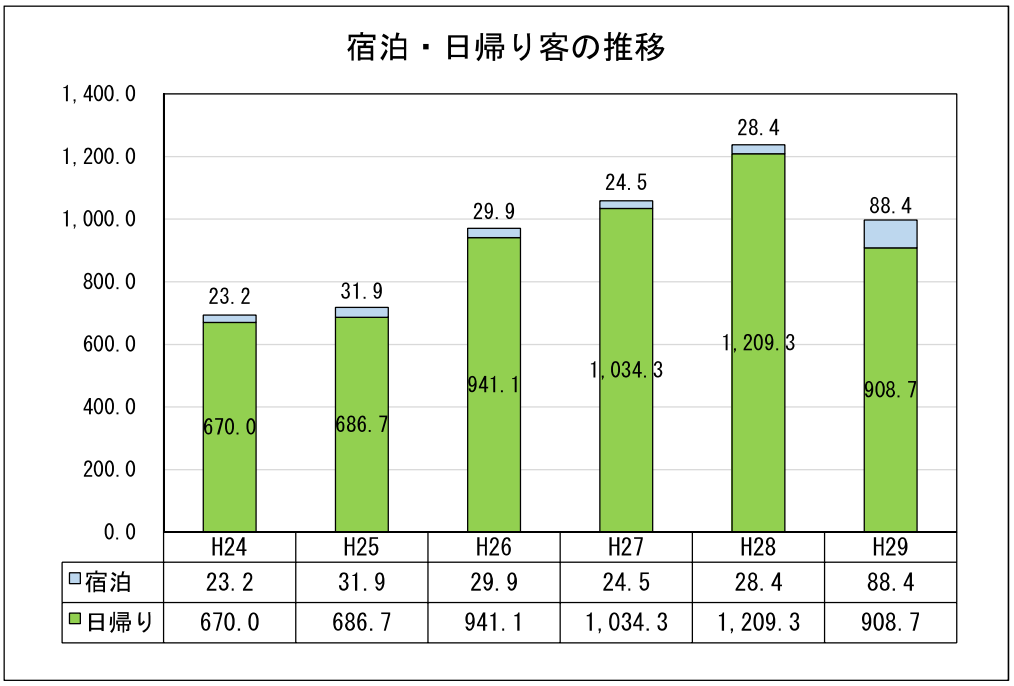
特に、北海道新幹線開業後の道外客数については、それ以前と比較すると飛躍的に増加しています。



ウ　宿泊・日帰り別の入込客数の状況

日帰り客については、全体的に増加傾向にありましたが、平成２９年度は減少に転じました。

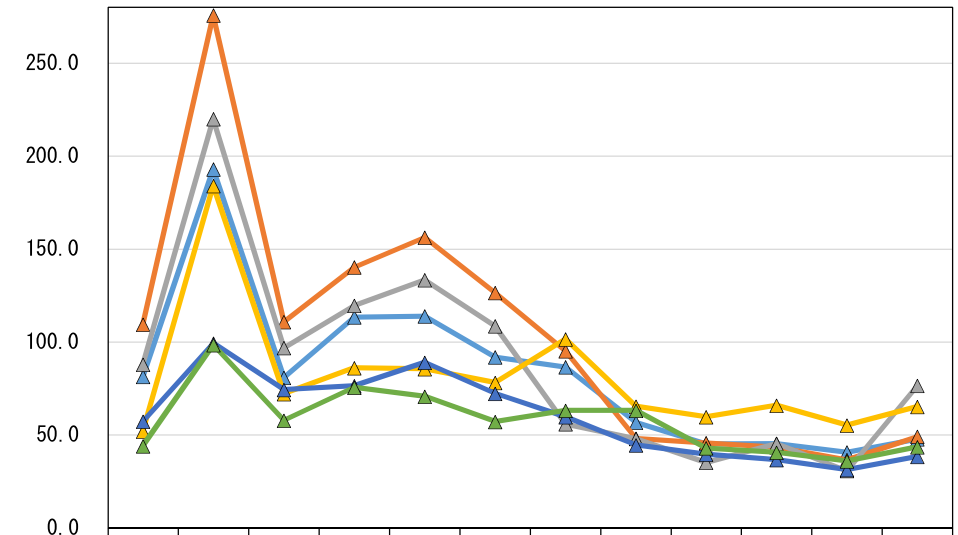
一方、宿泊客については、近年同程度の水準を保ってきていましたが、新函館北斗駅前に待望のホテルが開業した影響もあり、平成２９年度には前年度と比較すると約３倍の伸びとなっています。



エ　月別入込客数

当市の観光入込客については、上期（４～９月）の入込が中心となっており、全体の６～７割程度を占めています。

中でも、第１四半期（４～６月）、特に「北斗桜回廊」が実施される５月の入込客が年度中最大となっています。



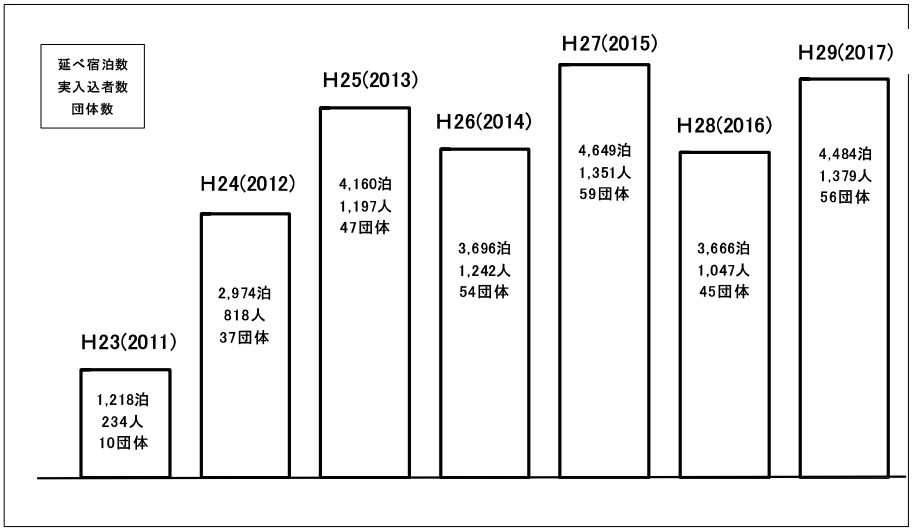
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H29	81.4	193.0	80.9	113.5	114.0	91.9	86.5	56.8	45.2	45.4	40.7	47.8
H28	109.5	275.8	110.8	140.3	156.3	126.6	95.2	48.2	45.8	43.5	36.6	49.1
H27	88.0	220.1	96.9	119.6	133.4	108.6	56.0	48.0	35.3	45.5	30.8	76.6
H26	51.9	184.1	72.1	86.1	85.6	78.2	101.5	65.4	59.8	65.9	55.2	65.2
H25	57.3	99.3	74.3	76.4	89.0	72.2	59.7	44.6	39.5	36.7	31.3	38.3
H24	44.0	98.5	57.8	75.6	70.8	57.2	63.1	63.1	42.9	40.6	36.0	43.6

オ　スポーツ合宿利用者の推移

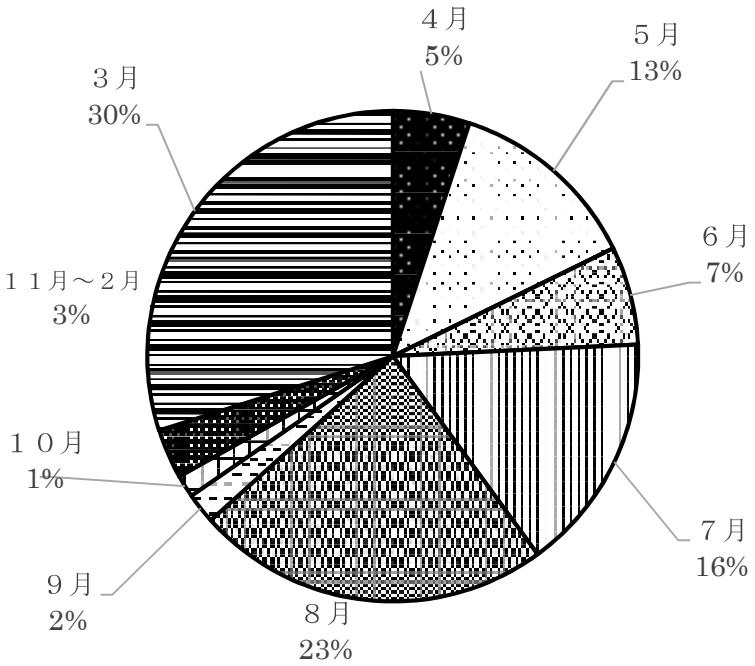
観光振興の柱となる「スポーツ合宿」の利用については、陸上競技場や野球場などの運動施設が集中している北斗市運動公園を核として、平成２５年度から毎年１，０００人以上の合宿を受け入れています。

スポーツ合宿の受入は、３月～４月の３５％、７月～８月の３９％とこの４カ月で全体の７割を占めています。

スポーツ合宿利用者の推移



スポーツ合宿の月別受入



（２）主な観光資源の特徴

ア　新函館北斗駅周辺・国道２２７号沿い

○北斗市観光交流センター

北海道新幹線駅・新函館北斗駅併設の「北斗市観光交流センター本館・別館」には、北斗市をはじめとするみなみ北海道の特産品やここでしか買えない逸品などを販売しています。また、北斗市を含めたみなみ北海道全体の観光情報を紹介する「北斗市観光案内所」もあり、まさにヒト・モノが行き交う観光拠点です。

○きじひき高原

新函館北斗駅の北西部に位置し、標高６８３ｍの木地挽山一帯に広がる「きじひき高原」には、景観がすばらしい「キャンプ場」と森林浴を楽しめる「匠の森公園」といったレクリエーションに最適な施設があり、市民の憩いの場所です。

また、平成２６年に完成し、年間約１０万人の観光客が訪れる「パノラマ展望台」は、４月下旬から１０月下旬までの間、特に強風時でもゆっくりと景観を楽しむことができます。ここからは、雄大な津軽海峡や函館山、大野平野に巨大な弧を描く北海道新幹線の高架橋、箱庭のような駒ヶ岳と大沼・小沼など様々な絶景が見渡すことができ、ドライブなどでの人気のビュースポットです。

○八郎沼公園

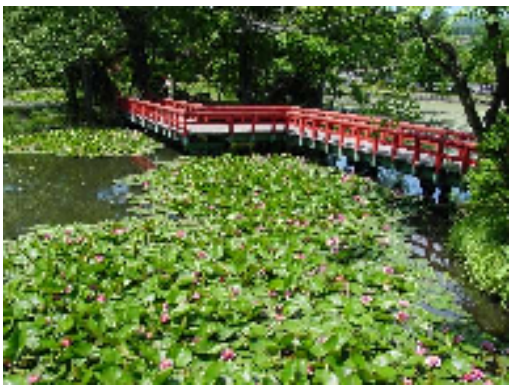
　きじひき高原の近くにある「八郎沼公園」は、４月下旬から１０月下旬までの間、水芭蕉や桜、ツツジ、スイレンといった草花を楽しむことができるレクリエーション施設です。

○体験型観光農園

　八郎沼周辺には季節の野菜や果物を収穫することができる観光農園が点在しており、特に６月のイチゴや７月のさくらんぼが大変人気です。

○あぐりへい屋

　みなみ北海道自慢の農産物や地元野菜を使った惣菜、水産加工品なども取り揃えています。「見る・知る・選ぶ・味わう」のコンセプトで、今までにない交流体験型の農産物直売所です。



イ　道道９６号線沿い

〇法亀寺シダレ桜

樹齢およそ３００年といわれる道内最大級のシダレ桜で、高さ１２ｍから垂れ下がった枝いっぱいに花が咲きます。「北斗桜回廊事業」のシンボルとして、観光客に大変人気の桜スポットです。

〇大野川沿い桜並木

大野川沿いに続く桜並木は、昭和３４年（１９５９年）、当時の皇太子殿下のご成婚を記念し植えられました。桜の開花時期のライトアップ時間は、道路を歩行者天国とするため、ゆっくりの夜桜鑑賞を楽しめます。

〇松前藩戸切地陣屋跡

安政元年（１８５４年）の神奈川条約締結後、幕府が外国船渡来による不測の変に備え、蝦夷地防衛の強化を図るため、翌２年、津軽・南部・仙台・秋田・松前の五藩に分担警備させた中で、七重浜から木古内までを担当した松前藩の陣屋として安政２年（１８５５年）に築かれたものです。

構造は四稜郭で、完成から１３年後の明治元年（１８６８年）箱館戦争の時、旧幕府軍に陣屋が使われないよう、新政府軍である松前藩自らが建物に火を付け焼き払っています。

ここ戸切地陣屋跡も法亀寺と並ぶ桜の名所で、陣屋へ続く約８００ｍの桜トンネルは、大型観光バスの観光客や家族連れで賑わっています。

ウ　国道２２８号沿い（飯生～三ツ石）

〇貝鮮焼・北斗フィッシャリー

漁協直営のイートイン型直売施設で、管内の漁港で水揚げされたホッキや牡蠣、ホタテ、ツブといった貝類を鉄板で蒸し焼きにして食べられます。函館湾に面しているので、景観を楽しみながら食事を楽しむことができます。

〇茂辺地川

南北海道でも、間近で鮭の遡上風景が見られる「茂辺地川」は、１０月中旬から１１月中旬が見頃で、気軽に川に近づくことができます。中流付近にあるアウトドアに最適な「湯の沢水辺公園」、自然の美しさと豪快さをみせつける渓流「盤の沢」などがあります。

〇茂辺地北斗星広場

平成２７年に惜しまれながら引退したＪＲ寝台特急「北斗星」の客車２両が保存され、全国の鉄道ファンが訪れます。

ここ茂辺地地区では、北斗星を楽しみに訪れる観光客を受け入れるため、花壇の整備や地域ならではの食の提供を行っています。

〇灯台の聖母トラピスト修道院

正式名称は「厳律シトー会灯台の聖母大修道院」で、明治２９年（１８９６年）に、フランスから９人の修道士たちがこの地を訪れ、日本最初のシトー会トラピスト修道院を創設しました。童謡「赤とんぼ」の詩は、大正時代の４年間、修道院の文学講師を務め、トラピストの丘に住んでいた三木露風によって作られた

ものです。

ここ石別地区では、トラピスト修道院へ続く並木道の景観を生かした着地型観光として、ウォーク事業や修道院・葛登支灯台の見学事業、ライトアップ事業に取り組んでいます。

○年間のイベントスケジュール

北斗市は、灯台の聖母トラピスト修道院や国指定史跡松前藩戸切地陣屋跡、眼下に南北海道一の絶景が広がるきじひき高原など、多くの観光資源があり、また、自然豊かな大地と海からとれる豊富で新鮮な食資源に恵まれていますので、市内各種団体によって様々なイベントが催されています。

イベント名	開催時期	開催場所
北斗桜回廊	4 月下旬～5 月上旬	法亀寺ほか
北斗陣屋桜まつり	5 月上旬	松前藩戸切地陣屋跡
本町商店街夜店	7 月中旬	北斗市総合分庁舎前
北斗フィッシャリー感謝祭	7 月中旬	北斗漁港（上磯地区）
青二祭	7 月下旬	エイド'03 特設会場ほか
北斗市夏まつり	7 月下旬	エイド'03 特設会場ほか
ふるさとの夏まつり	8 月上旬	北斗市運動広場
七重浜商店会納涼夏祭り	8 月上旬	七重浜住民センター駐車場
きじひき高原まつり	8 月中旬	きじひき高原見晴公園
商工観光まつり in 八郎沼	9 月下旬	八郎沼公園
北斗オータムマルシェ	10 月中旬	JA 新はこだて大野基幹支店特設会場
石別ホリデーウォーク	10 月毎週土日祝	当別、三ツ石
北斗市茂辺地さけまつり	11 月 3 日	茂辺地川下流特設会場
トラピスト通りライトアップ	12 月 17 日～24 日	トラピスト通り
北斗フェブラリーフェスタ	2 月中旬	新函館北斗駅周辺
北斗ウェルカムマーケット	不定期	市内各所

（３）観光の課題

ア　点在している観光資源への集客・周遊をどう図るか

北斗市の主要な観光資源は、新函館北斗駅を拠点とした道道９６号線や国道２２８号に点在していることから、徒歩での「まち歩き」などが難しいうえ、公共交通機関で来訪できる資源も一握りであり、マイカーやレンタカー、観光バスなど自動車での周遊がメインとなります。

このことから、新函館北斗駅を起点とし、道道９６号線と国道２２８号を結んだ周遊ルートを重要路線と位置づけ、その沿線の主要な観光資源について、民間による受入体制を一層促進するとともに、豊富で新鮮な食資源や豊かな自然環境といった地域資源や、あらゆる交通機関を活用した周遊観光ルートの多様化を図るなどにして観光客の回遊性の向上を図る必要があります。

イ　北斗市の観光プロモーションをどう進めるか

国内外の観光客が安心して快適に観光できるよう北斗市観光交流センターを拠点に、首都圏や北海道新幹線沿線地域からの集客促進を図るため、アンケートや観光客入込統計により観光客の動態等を分析するなどして、ターゲットを絞った効果的なプロモーションの実施、また、ＳＮＳやインターネット等を通じた情報発信の強化を図っていく必要があります。

また、生活圏・文化圏として近い存在にある東北方面や、北海道新幹線延伸を見据えた宣伝誘致活動にシフトするとともに、新幹線駅所在自治体等との都市間交流を通じながら、さらなる誘客促進を図る必要があります。

ウ　主要観光地での受入体制の充実や外国人旅行者への対応をどう図るか

近年の旅行動向は、従来の団体旅行だけでなく、個人の好みや、関心にあわせた少人数での旅行にも対応した観光振興策が求められています。

また、外国人旅行者の消費行動に代表される「モノ消費」から北斗ならではの文化や自然等を体験・体感する「コト消費」への消費スタイルのシフト等といったように旅行者のニーズは日々変化していることから、着地型観光の担い手となる観光協会の体制強化、体験型観光の商品化とともに、観光客の受入体制を充実するため、観光ガイドの育成やおもてなし意識の醸成、インバウンド対応といった分野で市民レベルでの観光関係人口の拡大を支援していく必要あります。

エ　北斗市での滞在時間の延長、閑散期における集客をどう図るか

北斗市の観光は、現在、日帰り観光が中心となっていますが、経済波及効果を考えると、１泊２日以上の宿泊滞在型観光地への推進が求められるところです。

そこで、観光資源に限らず、運動施設を活用した「スポーツ合宿誘致」や、自然景観を活用した「ロケ撮影誘致」などにより、長期滞在に向けた取り組みが求められます。

オ　南北海道の玄関口として各地域への周遊をどう図るか

新函館北斗駅直結の好立地で「ヒト・モノ・情報」が集う北斗市観光交流センターは、南北海道の玄関口として、幅広い観光情報を提供するための観光案内機能やＳＮＳ、インターネット等を通じた情報発信の強化、外国人旅行客にも対応できるよう観光情報の多言語化を充実していく必要があります。

また、個々の地域のみならず複数の地域間で連携を強化し、ストーリー性やテーマ性に富んだ多様な広域観光周遊ルートを形成し、情報発信力を高めるため、国際観光都市である函館市をはじめ、近隣自治体や交通事業者等との連携することが重要です。

○北 斗 市 全 体 図

（主な観光スポット　観光パンフレット抜粋）